

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地			
中央工学校OSAKA		昭和61年3月31日		中村 聖吾		〒 561-0872 (住所) 大阪府豊中市寺内一丁目1-43 (電話) 06-6866-0800			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地			
学校法人 中央工学校		昭和39年3月27日		堀口 一秀		〒 114-8543 (住所) 東京都北区王子一丁目26-17 (電話) 03-3906-1211			
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度		高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度	
工業	工業専門課程		住宅デザイン学科		平成24(2012)年度		-	平成27(2015)年度	
学科の目的		工業分野に従事しようとする者に、企業との連携の上で実務性の高い専門知識及び技術・技能を修得させるとともに志操堅実な技術者を育成する事を目的とする。							
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)		日本で最も多い木造住宅を中心に、戸建て住宅の設計手法を身につけていく。人が住む環境を様々な視点から学び、住空間をデザインする能力を養う。 取得可能な資格: 2級建築施工管理技士補、建築積算士、福祉住環境コーディネーター、色彩検定等							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技	
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入		2,308 単位時間	770 単位時間	1,538 単位時間	単位時間	単位時間	単位時間
		単位		単位	単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率			
80人	67人		1人		0%	1%			
就職等の状況	■卒業者数(C)		28人						
	■就職希望者数(D)		13人						
	■就職者数(E)		13人						
	■地元就職者数(F)		10人						
	■就職率(E/D)		100%						
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		77%						
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		46%						
	■進学者数		15人						
	■その他								
	・進学先: 本校研究科15人 (令和6年度卒業者に関する令和7年5月1日時点の情報)								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有的場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL				無				
当該学科のホームページURL	https://www.chuoko-osaka.ac.jp/								
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)								
	総授業時数				2,308 単位時間				
教員の属性(専任教員について記入)	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				0 単位時間				
	うち企業等と連携した演習の授業時数				1,398 単位時間				
	うち必修授業時数				2,308 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				0 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				1,398 単位時間				
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				0 単位時間				
	(B: 単位数による算定)								
	総単位数				0 単位				
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数				〇〇 単位				
	うち企業等と連携した演習の単位数				〇〇 単位				
うち必修単位数				〇〇 単位					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数				〇〇 単位					
うち企業等と連携した必修の演習の単位数				〇〇 単位					
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)				〇〇 単位					
教員の属属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)				0人				
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)				5人				
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)				0人				
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)				1人				
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)				0人				
	計				6人				
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				6人				

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

専門学校の目的は「職業もしくは實際生活に必要な能力を育成し、又は教育の向上を図る」ことにある。本校は、建築系専門学校として100年余の歴史と伝統のある中央工学校のグループ校で、工業技術教育を行う専門学校として技術者の育成を行っているが、広く社会の要請に応じた組織的な教育を行うためには、企業等との連携は欠かせない。専門課程の教育内容に適した企業との連携により、実践的な職業教育水準の維持向上に努める。特に教科構成や実習・演習の実施、教員研修について、企業等の意見を反映させるように取り組む。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

上記基本方針に則り、校長の下に教育課程編成委員会を置き、全学科の教科構成について、実務における重要事項が該当する学科のカリキュラムに反映されているかを確認する。

指摘を受けた内容について、各学科において詳細検討を行い、改善項目を校長に報告する。校長は教育課程編成委員会委員にその旨を伝達する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年7月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
田鍋 稔	公益社団法人大阪府建築士会常任理事	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
金沢ちかこ	公益社団法人日本インテリアデザイナー協会 西日本エリア副エリア長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
小坂田昌広	株式会社松本組取締役兼副社長執行役員	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
田中 由之	株式会社PPI計画・設計研究所取締役設計室長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
岩尾 美穂	オフィスいとり代表	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
中村 聖吾	中央工学校OSAKA校長	—	—
原 充介	中央工学校OSAKA教務部長兼教務室長	—	—
中島 征治	中央工学校OSAKA教育室長	—	—
檜崎 悟志	中央工学校OSAKA教務室係長	—	—
太田 育子	中央工学校OSAKA建築系主任(教育)	—	—
諸岡 邦行	中央工学校OSAKA建築系主任(広報)	—	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
(年間の開催数及び開催時期)
本校は二期制のため、前・後期の節目となる時期を定めて年2回教育課程編成委員会の開催を原則とする。(9月、2月)
(開催日時(実績))
第1回 令和6年10月28日 15:00～17:00
第2回 令和7年2月19日 15:00～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
教育課程編成委員会により出された意見は、翌年度の教科構成に反映をさせる。
令和6年度については、令和6年10月および令和7年2月開催の同委員会の結果を鑑みて、教科構成の必要な修正を行うものとする。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
実習・演習等は専門学校教育の根幹をなす重要なものである。よって、常に最新の技術を指導する必要がある、そのために学校と企業等が密接に連携した体制を築き、より実践的な職業教育となるように努める。
連携を行う企業とは、雇用契約書を取り交わし、契約の趣旨に則り実践的な職業教育を行うものとする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容
※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
上記基本方針に則り、次の項目について連携を行う。
①カリキュラムの作成
②講義及び実習の実施
③講義・実習教材の作成
④成績評価及び進級審議等に関する助言
⑤その他の実習運営上に必要となる事項

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
建築・インテリアデザイン演習	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	建築・インテリアの職業に就くために必要な「空間」づくりの基本を学ぶことを目的とする。 課題を通して、以下の力を身に付けることを目標とする。 (1)色を与えるイメージや基本的な色の構成を理解する (2)空間創造のコンセプトワークによって、イメージを具体的な空間に落とし込む能力を養う (3)模型を制作する基本的な技術と表現力を身につける。	一級建築士A.S.A.P.design Lab. 感響創造クーハウス
設計演習Ⅰ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	住まいのアイデアが形となって完成するまでの設計プロセスに注目し、一般的な住戸の形式にとらわれず、空間を自由に発想することで、住宅デザインの軸となる設計力を養う。 また、設計したものをコンペに応募する状況を想定して、作品として伝えることを意識した見せ方を学ぶ。	一級建築士A.S.A.P.design Lab. 一級建築士事務所 岩井文彦建築研究所

CAD演習 I	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	建築業界で使用されているCAD・BIMソフトの操作性を学ぶことを目的とし、課題としてRC造・木造の図面の表現方法を学ぶことを目標とする (1)製図の授業で学んだ表現方法を基本に、CAD・BIMソフトを使った図面作成技術を習得する (2)CAD・BIMは、あくまで図面を作成する1つの手段であることを理解し、CAD・BIMの特性を学ぶ (3)RC造・木造の図面の表現方法を学ぶ	Radian design and architecture Terranova planning
建築製図演習	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	木造2階建住宅の設計を通じ、 (1)「建築・インテリア基礎製図演習」で学んだことを振り返り、必要図面と記入事項を覚える ・設計図書の理解(配置図、平面図、立面図、断面図、矩計図、展開図、仕上表) ・各設計図書に印すべき事項 (2)住宅の設計において考慮すべき基本的な事を理解する ・住み心地を考慮した部屋の配置 ・人間の寸法に合った適切な部屋や廊下、家具等の大きさ ・最低限の法規チェックとして、容積率、建ぺい率、北側斜線の計算ができる (3)木構造への理解を深める ・どこに柱を配置すればよいのか、また、柱スパンの上限値を理解する ・梁が架かる位置と梁のサイズを算出する手法を知る ・断面図を描く際に、天井裏のふところを理解する	材寄建築設計室 Terranova planning
BIM演習	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	設計演習Ⅱと連動した科目として位置づける。CAD演習で培った基礎的な操作方法を元に、設計演習Ⅱの作品をBIMモデルで作成することを課題とする。 これまでに手描きで習得した基本的な図面表現・パース表現を、次のステップとして、BIMソフトを使って自由に表現できる力へ発展させることを目標とする。ソフトの習得にあたっては、自ら積極的に使い方を試す姿勢や、分からない操作方法があった場合にも質問したり調べる姿勢を期待する。 CAD演習に引き続き、基本設計、実施設計におけるBIMソフトのArchiCADの操作方法を習得する。最終的には、1年生後期に自主設計した木造住宅のモデル、基本図(平面図、立面図、断面図)を作成できることを目標とする。	Radian design and architecture Terranova planning

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係	
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 本校の教育職にあるものは、各自が担当する授業の分野に応じ、企業等と連携の上で高度化、多様化する理論及び新技術等について研修に努めなければならない。 校長に承認を得た者は企業等と連携の上で、校外研修(長期研修・短期研修)及び特別研修を行うことができる。	
(2)研修等の実績	
①専攻分野における実務に関する研修等	
研修名: 令和6年度職員研修発表会	連携企業等: ベクターワークスジャパン(株)等
期間: 令和6年8月23日(金)	対象: 太田、篠崎
内容: 教員による自主研修内容の発表を行う	
②指導力の修得・向上のための研修等	
研修名: ○○○	連携企業等: 株式会社○○
期間: ○○○	対象: ○○
内容: ○○○○○	
(3)研修等の計画	
①専攻分野における実務に関する研修等	
研修名: BIM CAMP 2024	連携企業等: ベクターワークスジャパン(株)
期間: 令和6年8月9日(金)	対象: 篠崎
内容: 「Vectorworks Architect」と「BIMスターターパック」を使い、RC建築設計を体感する	
研修名: 商業施設士 特別資格講習会	連携企業等: (公社)商業施設技術団体連合会
期間: 令和6年8月3日(土)	対象: 太田
内容: 商業施設または商業施設技術に係る仕事に従事されている人向けの、資格取得のための講習プログラム	
②指導力の修得・向上のための研修等	
研修名: ○○○	連携企業等: 株式会社○○
期間: ○○○	対象: ○○
内容: ○○○○○	
4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係	
(1)学校関係者評価の基本方針 学生が質の高い実践的な職業教育を享受できるよう、学校運営の改善と発展を目指すため、中央工学校運営指針に則り自己評価を実施する。 実践的な職業教育を目的とした、自らの教育活動その他の学校運営について、社会のニーズを踏まえた目指すべき目標を設定し、その達成の適切さ等について評価を行うことが目的となる。 また、卒業生・企業・業界団体等の学校関係者を選任し、自己評価結果についての改善に向けた専門的な助言を受け、組織的・継続的な改善を図る。	
(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応	
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	①教育理念・目的・育成人材像は定められているか ②学校における職業教育の特色は何か ③社会のニーズを踏まえた学校の将来構想を抱いているか ④教育理念・目的・育成人材像・特色・将来構想は、学生・保護者等に周知されているか ⑤教育理念・目的・育成人材像・特色・将来構想は、対応業界のニーズに対応しているか

(2) 学校運営	① 目的等に沿った運営方針が策定されているか ② 学則・細則・内規等は整備されているか ③ コンプライアンス体制が整備されているか ④ 教育活動に対する情報公開が適切になされているか ⑤ 情報システム化等により業務の効率化が図られているか
(3) 教育活動	① 各学科のカリキュラムは体系的に編成されているか ② カリキュラムや教育方法の工夫・開発・見直しが適切に行われているか ③ 授業評価の実施体制はあるか ④ 資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ⑤ 成績評価の基準は明確になっているか ⑥ 教員資質向上のための研修が行われているか
(4) 学修成果	① 就職率の向上が図られているか ② 資格取得率の向上が図られているか ③ 退学率の低減が図られているか ④ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ⑤ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し、教育の改善に活用されているか
(5) 学生支援	① 進路・就職に関する支援体制は整備されているか ② 学生相談に関する体制は整備されているか ③ 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか ④ 学生の健康管理を担う組織体制はあるか ⑤ 保護者と適切に連携しているか
(6) 教育環境	① 施設・設備は、教育上の必要性に充分対応できるよう整備されているか ② 学内外の実習施設・インターンシップ等について充分整備されているか ③ 防災に対する体制は整備されているか
(7) 学生の受入れ募集	① 学生募集活動は適正に行われているか ② 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ③ 学納金は妥当なものになっているか
(8) 財務	① 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ② 予算・収支計画は有効かつ妥当なものになっているか ③ 財務について会計監査が適正に行われているか ④ 財務情報公開の体制整備はできているか

(9) 法令等の遵守	①中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ②予算・収支計画は有効かつ妥当なものになっているか ③財務について会計監査が適正に行われているか ④財務情報公開の体制整備はできているか
(10) 社会貢献・地域貢献	①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ③地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか
(11) 国際交流	①留学生の受入れについて戦略を持って行っているか ②受入れ・在籍管理等について適切な手続きがとられているか ③留学生の学習支援について、適切な体制が整備されているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会を開催し、学校関係者からの指摘を受け、令和元年度中央工学校OSAKA学校教育計画にこれらの是正事項を示し、自己評価において、それらの是正状況を確認する。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
田鍋 稔	公益社団法人大阪府建築士会常任理事	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
金沢ちかこ	公益社団法人日本インテリアデザイナー協会 西日本エリア副エリア長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
小坂田昌広	株式会社松本組取締役兼副社長執行役員	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
田中 由之	株式会社PPI計画・設計研究所取締役設計室長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
岩尾 美穂	オフィスいろどり代表	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
中村 聖吾	中央工学校OSAKA校長	—	—
原 充介	中央工学校OSAKA教務部長兼教務室長	—	—
中島 征治	中央工学校OSAKA教育室長	—	—
檜崎 悟志	中央工学校OSAKA教務室係長	—	—
太田 育子	中央工学校OSAKA建築系主任(教育)	—	—
諸岡 邦行	中央工学校OSAKA建築系主任(広報)	—	—

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.chuoko-osaka.ac.jp/campus/information/>

公表時期: 令和7年9月上旬

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

URL:www.chuoko-osaka.ac.jp

ホームページ・教職員会議にて令和7年度教育基本方針を配布

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	①建学の目的 ②基本的運営方針 ③重点管理指針
(2)各学科等の教育	①具体的方策 ②各学科の重点管理項目
(3)教職員	①教員資質の向上と新技術の修得 ・教員研修発表会 ・校外研修(企業等との連携)
(4)キャリア教育・実践的職業教育	①実技・実習を中心とした職業教育への取り組み ②特別活動による校外実習 ③企業等と連携した校内実習
(5)様々な教育活動・教育環境	①学生満足度の向上 ・学生アンケート ・学生による授業評価 ②資格取得支援 ③外部に対する情報公開
(6)学生の生活支援	①スポーツ大会、緑地祭を中心とした楽しい学校づくり ②担任を中心とした生活指導 ③進路指導 ・就職指導 ・進学指導 ・留学生進路指導
(7)学生納付金・修学支援	募集要項・パンフレット等にて公開しているが、企業等に対しての特別な公開をしていない。
(8)学校の財務	企業等に対しての特別な公開をしていない。
(9)学校評価	①自己評価・公表 ②学校関係者評価・公表

(10)国際連携の状況	特になし
(11)その他	①保護者との連携 ②専門学校との連携 ③教育機関との連携 ④防災対策の整備 ⑤個人情報の保護

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.chuoko-osaka.ac.jp/campus/information/>
 公表時期: 令和7年9月上旬

授業科目等の概要

(工業専門課程 住宅デザイン学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			数学	建築に必要な数学の基礎を習得することを目指す。 使用する単位、面積計算に必要な図形、力学計算に必要な三角比・関数計算とグラフの関係・指数計算ができるようにする。	1前	36		○			○		○		
2	○			建築・インテリア概論	建築系の各分野で活躍されている方から業界の魅力を学び、自らの働く姿を想像し卒業後の目標を見つける手がかりとする。 また、現場の実情なども知り社会的な課題と共に、今後の展望について技術者像をイメージするきっかけとする。	1前	36		○			○		○	○	○
3	○			建築・インテリア計画	日常生活と建築・インテリアとの関わりについて考えさせるとともに、建築・インテリア計画を進めるための基本事項を理解させ、過去の作品例を分析しつつ、未来に対応できる建築家としての能力を養う。 生活空間のあり方を人間のサイズや行動からとらえたうえで、色、形、材質及び、その構成や、構造が及ぼす影響を理解し、創造的で豊かな建築・インテリアの計画を目指す姿勢を養う。	1前	36		○			○		○		
4	○			建築史Ⅰ	西洋建築（石の建築）と日本建築（木の建築）の歴史を全般的に学ぶことで、人間の暮らしと建築物、そして環境との関係性について知るきっかけとする。 また、日本国内だけでなく世界の建築物を通して建築に対する見識を広げる。	1前	36		○			○		○		

5	○			構造力学Ⅰ	構造物（建築物）がいかに建っているのか、力はどうのように働くのか、力学的な考え方の基礎を理解する。 建築物がなぜこのような形をしているのか、どのように計画していくかを理解するための一歩目とする。以下の理解・習得を目標とする。 （１）力の性質と表現方法を理解する （２）力を分解することができる （３）反力を、力のつり合いをもとに単一材と簡単なラーメン構造で求めることができる	1 前	36		○			○		○				
6	○			建築構造Ⅰ	木構造の基本的な組み方と部材を性質とともに理解し、「建築インテリア基礎製図演習」と連動して、図面を描いたり設計をする際の基礎知識を養う。 二級建築士受験の上でも科目の1つとなっている分野であるので、受験を想定した問題にも取り組む。	1 前	36		○			○				○	○	
7	○			建築・インテリア基礎製図演習	木造における基本的な設計図書一式（平面図・立面図・断面図・矩計図・展開図・伏図・仕上表）のトレースを通じて、線の描き方から図面として記載すべき項目や描き方の決まりごと等の基本的な製図技法を身に付け、覚える。	1 前	##			○		○		○	○	○		
8	○			ＩＴリテラシー	パソコンの起動、終了、保存、マウス・キーボード操作、基本用語、PC各部の名称などの基本を学び、MicrosoftOfficeの操作を習得する。 また、インターネットを活用する上での安全な使い方や、分析して活用する能力を身に着ける。	1 前	36			○		○				○	○	
9	○			建築・インテリアデザイン演習	建築・インテリアの職業に就くために必要な「空間」づくりの基本を学ぶことを目的とする。 課題を通して、以下の力を身に着けることを目標とする。 （１）色を与えるイメージや基本的な色の構成を理解する （２）空間創造のコンセプトワークによって、イメージを具体的な空間に落とし込む能力を養う （３）模型を制作する基本的な技術と表現力を身につける。	1 前	72			○		○				○	○	

10	○			レンダリング 演習Ⅰ	デッサンや着色、透視図等の基本的な表現技法を学ぶことで、プレゼンテーションで使える様々な表現方法を習得する。 立体・空間の表現技術や図法・絵画技術を習得する。	1 前	72			○		○			○	○
11	○			建築計画	住宅を中心に、様々な建築を通して必要寸法や一般的な形状、またその考え方など計画のあり方について学ぶ。過去の作品例を分析すると共に、異なる用途ごとにどのような空間が求められるのか、違いを理解する。二級建築士受験の上でも科目の1つとなっている分野であるので、受験を想定した問題にも取り組む。	1 後	34			○		○			○	○
12	○			住居学	はじめに、戸建て住宅の設計に必要な基礎的な知識を学び、「建築製図演習」で実践することで住宅設計の基礎を習得できるようにする。そして、住まいをとりまく日本の歴史的背景や現代の社会問題を知り、住宅に携わる者としての見識を広く持てるようにする。 また、人間の体の仕組みや高齢者についても知り、適切な住まいの空間設計ができるようになることを目標とする。	1 後	34			○		○			○	○
13	○			環境工学	室内の環境設計に必要な空気、熱、光、音等の環境要素について、人間や建築物に関わるものを中心として、物理的な考え方を基礎から学ぶ。 また、それらの知識を生かした具体的な設計事例を知ることで理解を深め、演習課題で知識を活用できるようになることを目標とする。	2 前	36			○		○			○	○
14	○			建築・住宅設備	住宅における「設備」とは何かを理解し、建築一般の設備の役割および種類・構成を学ぶ。 また、地球環境問題と建物の省エネルギーとの関わりについて理解し、社会情勢を踏まえた住宅のあり方を考えられるようになることを目標とする。	2 後	34			○		○			○	○
15	○			住宅デザイン史	近代住宅の発展過程と設計理論から、住まいに影響を及ぼす時代背景やデザインの意図をひも解くことによって、これからの住まいのあり方を主体的に考えていくための創造力を養う。	2 前	36			○		○		○		

16	○		建築法規Ⅰ	建築基準法の読み方・引き方を理解し、主に住宅設計にどのように影響するのか、基本的な規定（単体規定）を理解する。 また、演習を通じて実務でも対応できる力の習得につなげる。 二級建築士受験の上でも科目の1つとなっている分野であるので、受験を想定した問題にも取り組む。	2 前	36	○			○			○	○
17	○		建築法規Ⅱ	建築基準法及び関係法令について、建築法規Ⅰに引き続き、基本的な規定（集団規定）を理解すると共に、演習を通じて能力を養うことで実務でも対応できる力の習得につなげる。 二級建築士受験の上でも科目の1つとなっている分野であるので、受験を想定した問題にも取り組む。	2 後	34	○			○			○	○
18	○		構造力学Ⅱ	構造力学Ⅰで習得した考え方を基本とし、応力について理解することを目標とする。 また、構造力学Ⅲで習得する応力度の考え方の基本として、断面に関する数値と性質について学ぶ。具体的には以下を習得することを目標とする。 （１）部材の内部に生じる力（応力）を理解し、応力の求め方と応力図の基本的な描き方を身に着ける。 （２）トラス構造の基本を理解し、トラスの軸方向力（応力）を求める力を身に着ける。 （３）断面の性質を理解し、図心、断面二次モーメント、断面係数を求める力を身に着ける。 また、二級建築士受験の上でも出題範囲となるので、受験を想定した問題にも取り組む。	1 後	34	○			○			○	○
19	○		構造力学Ⅲ	以下について、考え方を理解した上で基礎的な計算ができること目標とし、二級建築士受験を想定した問題にも取り組む。 （１）応力度を理解し、許容応力度から部材の安全性を判定できる力を身に着ける。 （２）部材の形状と座屈・たわみの関係を理解し、座屈荷重や座屈長さ、たわみの大きさについて大小を比較検証できる力を身に着ける。 （３）弾性と塑性について理解し、崩壊荷重を求められる力を身に着ける。 （４）不静定構造物について、基礎的な解法を理解する。	2 前	36	○			○			○	○

20	○			構造設計	まず、構造設計の基本的な方針と構造設計におけるルート（流れ）があることを学ぶ。 そして、習得した構造力学の知識も活用しながら、構造設計で必要となる力の法則について理解した上で、建築物に対して発生する荷重や風圧力や地震力など具体的な設計に必要な考え方を数値と共に学ぶ。 また、構造種別による性質と部材の検討方法について理解することを目標とする。	2 後	34		○				○			○	○
21	○			建築構造Ⅱ	RC造、S造の基本的な仕組みを理解し、それぞれの建物の特徴や違いを知ることによって建築に対する視野を広げる。また、住宅においてもRC造やS造が用いられることを踏まえて、設計に生かせる基礎的な知識を養う。 二級建築士受験の上でも科目の1つとなっている分野であるので、受験を想定した問題にも取り組む。	1 後	34		○				○			○	
22	○			建築材料	建築に使われる材料の知識を幅広く全般的に理解し、卒業制作にも活かすことを目標とする。 材料の特徴を踏まえた上で内装材まで丁寧に選び、説得力のある作品づくりに励むことを期待する。	2 後	34		○				○			○	○
23	○			建築施工Ⅰ	建築物の基本的な施工方法や工事現場の業務を理解し、施工の場面も想像して住宅のデザインができるようになることを目標とする。 建築施工Ⅰでは、建築物の基礎が完成するまでを理解できることとする。 二級建築士受験の上でも科目の1つとなっている分野であるので、受験を想定した問題にも取り組む。	1 後	34		○				○			○	○
24	○			建築施工Ⅱ	建築施工Ⅰに引き続き、建築物の基本的な施工方法や工事現場の業務を理解する。 建築施工Ⅱでは、理解が難しい鉄骨工事と外装の様々な仕上げについての施工方法を理解することを目標とする。 二級建築士受験の上でも科目の1つとなっている分野であるので、受験を想定した問題にも取り組む。	2 前	36		○				○			○	○
25	○			住環境コミュニティデザイン	都市計画・地域計画に関する住宅をとりまく環境について、実践的なワークも行いながらどうやって「まち」はできるのか等、地域や都市についての考え方を学ぶ。 また、「町づくり」への関わりあいや、住宅を建築することによる周囲に与える影響などを掘り下げて考えられるようにし、住宅設計への視野を広げることを目標とする。	2 後	68		○				○			○	○

26	○		建築製図演習	木造2階建住宅の設計を通じ、 (1)「建築・インテリア基礎製図演習」で学んだことを振り返り、必要図面と記入事項を覚える ・設計図書の理解（配置図、平面図、立面図、断面図、矩計図、展開図、仕上表） ・各設計図書に印すべき事項 (2)住宅の設計において考慮すべき基本的な事を理解する ・住み心地を考慮した部屋の配置 ・人間の寸法に合った適切な部屋や廊下、家具等の大きさ ・最低限の法規チェックとして、容積率、建ぺい率、北側斜線の計算ができる (3)木構造への理解を深める ・どこに柱を配置すればよいのか、また、柱スパンの上限値を理解する ・梁が架かる位置と梁のサイズを算出する手法を知る ・断面図を描く際に、天井裏のふとこを理解する	1 後	##				○		○		○	○	○
27	○		CAD演習 I	建築業界で使用されているCAD・BIMソフトの操作性を学ぶことを目的とし、課題としてRC造・木造の図面の表現方法を学ぶことを目標とする (1)製図の授業で学んだ表現方法を基本に、CAD・BIMソフトを使った図面作成技術を習得する (2)CAD・BIMは、あくまで図面を作成する1つの手段であることを理解し、CAD・BIMの特性を学ぶ (3)RC造・木造の図面の表現方法を学ぶ	1 後	68				○		○		○	○	○
28	○		設計演習 I	住まいのアイデアが形となって完成するまでの設計プロセスに注目し、一般的な住戸の形式にとらわれず、空間を自由に発想することで、住宅デザインの軸となる設計力を養う。 また、設計したものをコンペに応募する状況を想定して、作品として伝えることを意識した見せ方を学ぶ。	1 後	68				○		○			○	○

29	○			設計演習Ⅱ	1、マンションの1室を改装することを想定した実務に沿った課題を通して、以下のスキルを習得することを目標とする。 ・現地調査の手順 ・白図の描き起こし ・ターゲット(住み手)を想定したテーマ設定 ・改装の際の注意点を踏まえた計画 ・室内環境を意識した仕上げの検討 ・提案ボードの作成からプレゼンテーション 2、集合住宅1棟の設計課題を通して、以下のスキルを習得することを目標とする。 ・集合住宅の住まいとしての特徴を理解する ・集合住宅に必要な諸室や各部計画について理解する ・1年次に習得した製図技法を応用して、自らの計画したものを基本図(配置図・平面図・立面図・断面図)として表現する	2 前	72				○		○			○	○
30	○			エクステリアデザイン演習	エクステリア(外構)について、道路から玄関までのアプローチ、塀やカーポートに至るまで、庭を含めた住宅まわりの計画手法から表現方法までを学ぶ。利便性だけでなく、いかに美しくデザインするか、人間と自然との関係や住宅と周辺環境との関係性を考えたデザインとはどのようなものかを追求する。また、提案する際の表現方法としてパースやプラン図の描き方の基本を、演習課題をとおして習得することを目標とする。	2 前	72				○		○			○	○
31	○			福祉住環境リフォーム演習	住宅では、時と共に住みづらくなる事例が様々ある。授業では、どのような事例が考えられるのかを学ぶと共に、どのようにリフォームをすれば豊かで安心できる生活ができるのかを考えていく。 バリアフリーの考えに基づいた居住空間や、ユニバーサルデザインなどといった福祉の観点から住まいづくりができる力をリフォームプランの制作課題を通して身に付けることを目標とする。	2 前	72				○		○			○	○

32	○			卒業制作	今までに各科目で習得した知識や技術を総合して、一つの作品制作を行う。主に、以下の住宅設計における基本的な考え方と作図能力を発揮し、表現することを目指す。 ・課題、目的の発見から解決、達成までのプロセスを考える力（テーマ設定～エスキス） ・課題、目的に対する答えを住宅として適格に空間に置き換える力（エスキス～基本設計） ・考えを形にして表現する能力（基本設計～実施設計：作図や模型、その他必要図書の理解） ・作品をより伝える方法でプレゼンテーションする力（発表）	2 後	##				○		○		○	○	○
33	○			プレゼンテーション演習	自分の考えを他者にうまく伝えるという事は、どんな業務においても重要である。授業では、特に建築実務における様々な場面でのプレゼンテーションを想定した課題を実践し、卒業制作のプレゼンテーションボード作成から発表方法までを検討する場とする。プレゼンテーションにおける目標は以下とする。 ・声の大きさ、スピード、トーン、表情、ボディランゲージ、目線まで考えて話ができる ・伝わりやすさを考慮したスライドデザイン(文字の大きさ・色・レイアウト・イラストやパース等を効果的に使う工夫) ・話の流れを意識したスライドの順番、発表時間の調整ができる ・場面や相手の立場に応じた伝え方を考えられる ・熱意を持って「伝えたい」と心から思うこと	2 後	68				○		○		○	○	
34	○			照明デザイン演習	照明が空間へもたらす効果や心理面への影響を理解した上で、器具についての基礎知識から選定の基準、住宅における配灯計画の手法を学ぶ。また、住宅の照明計画の課題を通して、設計実務の基礎能力を高めることを目標とする。	2 後	34				○		○		○		
35	○			インテリアスタイリング演習	住まいのインテリアをコーディネートするためのスキルと知識を養うことを目的とし、住空間を構成する様々な素材（エレメント）と住まい手の関わりについて、的確にとらえる力を身に着けることを目標とする。その中で、お客様のライフスタイルの分析方法を学び、お客様の人物像に合った提案ができる力を培う。	1 後	68				○		○		○	○	○

36	○			デジタルプレゼンテーション演習	住まいの提案を行う際に必要な色彩・レイアウトなどのグラフィックデザインの基礎を学び、建築・インテリアのプレゼンテーションにおけるボード・ドキュメント等のデジタルによる表現方法を習得することを目標とする。	1 後	34			○		○		○	○	○
37	○			CAD演習Ⅱ	設計演習Ⅱと連動した科目として位置づける。CAD演習で培った基礎的な操作方法を元に、設計演習Ⅱの作品をBIMモデルで作成することを課題とする。 これまでに手描きで習得した基本的な図面表現・パース表現を、次のステップとして、BIMソフトを使って自由に表現できる力へ発展させることを目標とする。ソフトの習得にあたっては、自ら積極的に使い方を試す姿勢や、分からない操作方法があった場合にも質問したり調べる姿勢を期待する。 CAD演習に引き続き、基本設計、実施設計におけるBIMソフトのArchiCADの操作方法を習得する。最終的には、1年生後期に自主設計した木造住宅のモデル、基本図（平面図、立面図、断面図）を作成できることを目標とする。	2 前	##			○		○			○	○
38	○			住空間デザイン演習	1年次には、図面作成における基本的なルールや正確に「描く」ことを中心に習得してきた。 発展科目である「テクニカル製図演習」では、様々な敷地形状に対する基本的な住宅のエスキスを繰り返し実践する課題を通して、住宅設計の要領をつかみ、プランニング手法を追求することを目的とする。戸建て住宅を中心として、住み手を想定した間取り（空間）づくりができるようになることを目標とする。	2 後	68			○		○			○	○
39	○			古民家リノベーション演習	伝統的な建築物には、その土地土地の気候や時代背景に加え、多くの知恵と工夫が詰まっている。それらをひも解き、現代の住宅設計にも生かせる考え方や優れたデザインを発見することを期待する。また、伝統的な木造住宅における歴史・工法・材料・道具等について学び、見学や演習を通して伝統的な木造住宅の特徴を理解することを目標とする。	2 後	34			○		○			○	○
40	○			アッセンブリーアワー	学校生活を通して、充実した学びと自己実現を図れるようになることを目的として、以下の力を身に着けることを主な目標とする。 （１）学校行事やクラス運営に関することを理解し、管理する力 （２）自らの意志で継続的に学習し、困難を乗り越える力 （３）自らが自主的に進路決定を行える力	1 通	70			○		○		○		

41	○				アッセンブリアワー	学校生活を通して、充実した学びと自己実現を図れるようになることを目的として、以下の力を身に着けることを主な目標とする。 (1) 学校行事やクラス運営に関することを理解し、管理する力 (2) 自らの意志で継続的に学習し、困難を乗り越える力 (3) 自らが自主的に進路決定を行える力	2通	70				○		○		○		
合計					41 科目				2308 単位（単位時間）									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	履修すべき全科目に合格、卒業課題の提出・合格、履修期間の出席率	1 学年の学期区分	2 期
履修方法：	定期試験の点数が50点以上、すべての課題の提出、科目出席率50%以	1 学期の授業期間	17.5 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。